

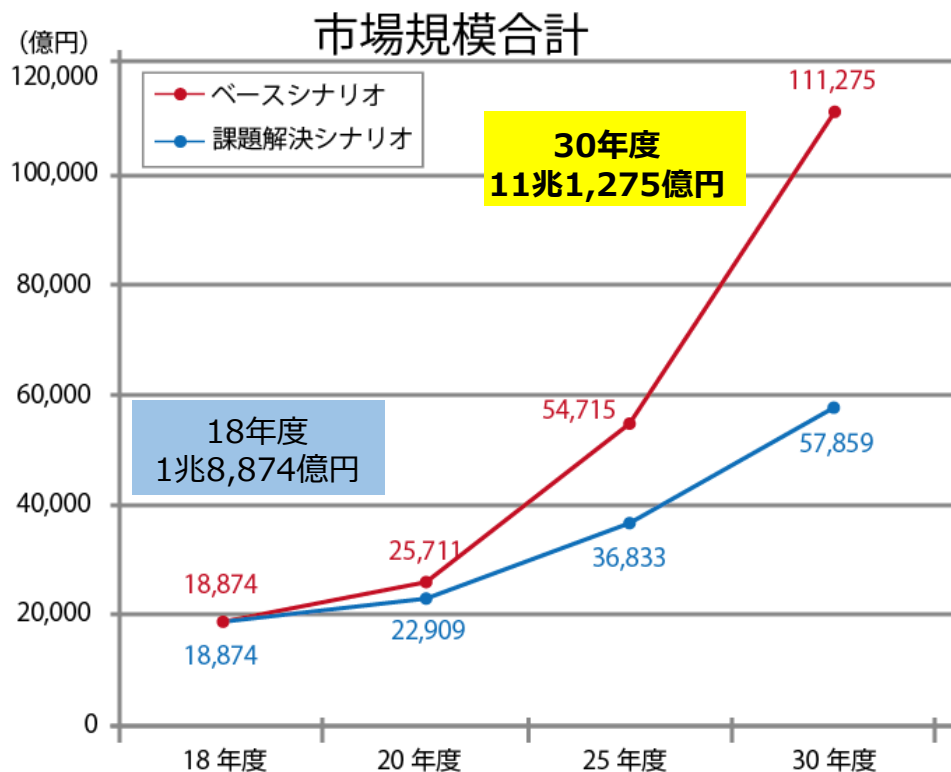
# シェアリングエコノミー市場と 着物レンタルの将来性

音楽や動画等におけるサブスクリプション型サービスへの移行に象徴されるように、商品・サービスの「所有」から「利用」へと個人の意識が変化しており、コンテンツだけではなく形ある「モノ」についてもシェアリングが受け入れられるようになってきた。このような状況からシェアリングエコノミーと呼ばれる新たな経済活動が拡大している。

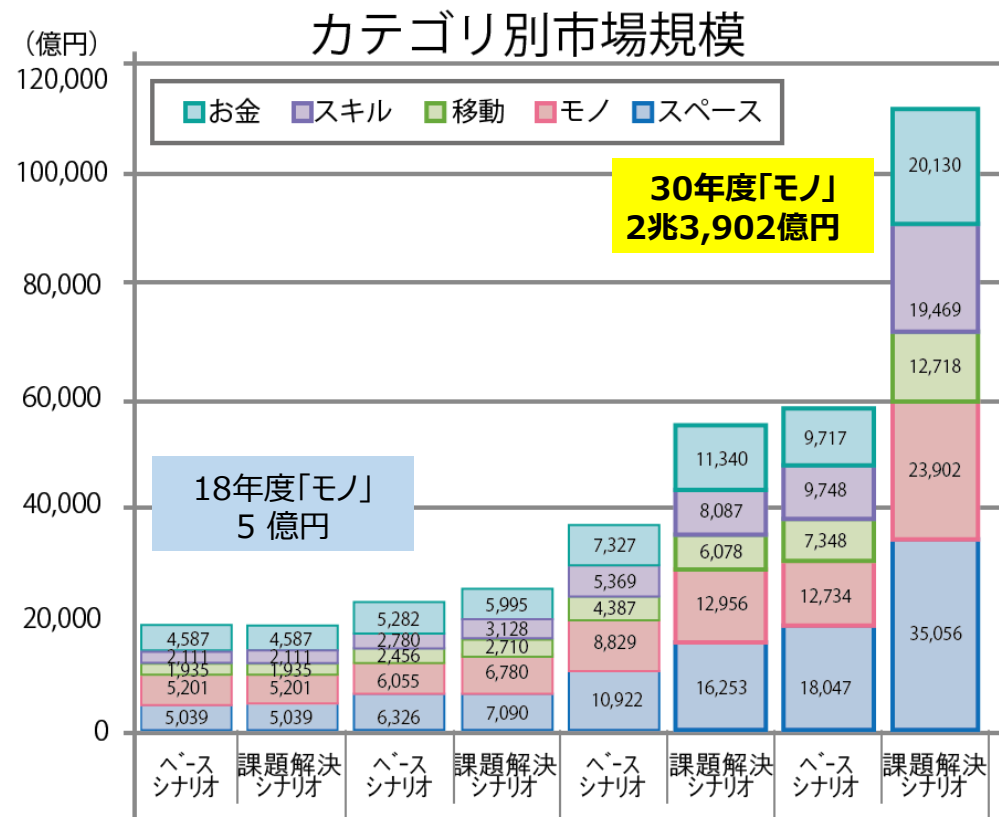
## 1. シェアリングエコノミー市場＝「着物レンタル」ビジネスの将来性

# 1. シェアリングエコノミー市場 = 「着物レンタル」ビジネスの将来性

シェアリングエコノミー協会、「シェアリングエコノミー市場調査 2018年版」より



- ・2018年度は約1兆8,874億円
- ・2030年度には約5兆7,589億円の市場に拡大予想 (ベースシナリオ)



**「モノ・着物」シェアリング市場規模 = 「着物シェア・レンタル」将来性があるビジネス**

シェアリングエコノミー市場の拡大は「モノの所有」から「サービス利用」へと消費者意識の転換にあります。消費者の視点で見ると、お金を払って自分のものとして100%所有するのではなく、共有やレンタルによって使った分（あるいは使う権利分）だけお金を払うという方式に変化しているのです。高価な着物はコストが高い「モノ」に当てはまり、「所有」するよりも共有やレンタルの需要が高まっています。そのような消費者の傾向からも呉服店は、**着物レンタルを始めることで「販売・モノ売り」ではなく「レンタル・サービス提供」してくれる店舗として、消費者に求められるようになります。**



### 更に、着物レンタルを始めると良いこと



**購入+レンタル+見込み客（円の重なり部分）が獲得できる**